

巻頭言

「リビングアメニティ」の 追求と普及を

東洋大学 助教授 小瀬 博之



はじめに

執筆依頼を受けたとき、まことに失礼ながら「ALIAという言葉は時折聞くけれど、どんな団体だろうか？」という程度の認識であった。「住宅部品業界に対する要望、要請、不満」を書くには力不足だし、引き受けたものとても困ったな、というのが正直なところであった。しかし、ALIAという団体が、Association of Living Amenity(社団法人リビングアメニティ協会)という名称であることを知り、アメニティについての研究を継続して行ってきた私は、その志の高さにとっても感銘を受けた。

さて、本誌の読者であれば、この言葉はすでに聞き慣れていて、改めてその意味を考えることもないのかもしれないが、「リビングアメニティ」とは果たして何なのだろうか。

「アメニティ」は国民に理解できない言葉なのか？

新聞やテレビのニュースでも話題となったのでご存じの方も多いと思うが、国立国語研究所「外来語」委員会がまとめた「第1回『外来語』言い換え提案一分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣いの工夫」¹⁾において、提案された62語の一つとして、「アメニティー」(原語のまま)が取り上げられている。そして、この言葉に対して「快適環境」「快適さ」という置き換え語が提案されている。さらに、「アメニティ」が最も求められる個所はトイレと浴室なのかもしれない(新聞)²⁾という用例も示されている。

ここに取り上げられる前提となった調査として、同所では、「外来語定着度調査」²⁾を行っている。この調査によると、「アメニティ」は、2002年12月の調査において、認知率(その語を「見聞きしたことがある」と答えた人の比率)が全体で53.3%、理解率(その語の「意味が分かる」と答えた人の比率)が全体で20.6%、使用率(そ

の語を「使ったことがある」と答えた人の比率)が全体で26.7%であった。この調査での調査語は405語であるが、その中で理解率は250番目であった。

この調査から、「アメニティ」については、「意味がわからないけれど、見聞きしたことはある」という人が多いことと、「意味を知らないけれど、使ったことがある」という人が少なからずいることがわかる。ということは、「リビングアメニティ協会」が何をしている協会であるかを名前から理解できる国民は、5分の1程度(リビング+アメニティなのでもっと低いかもしれない)しかいないことになる。『『優良な住宅部品の普及により快適な住生活の改善を図る』という目的に沿って活動を続けており』と貴会の会長挨拶³⁾にはあるが、組織名からその高い志を理解できる人が少ないのはまことに残念である。

「アメニティ」=「快適環境」「快適さ」とは「快感」が得られればよいのか？

53.3%の国民が見聞きしたことがある「アメニティ」という言葉であるが、私がいちばんよく目にするのは、ホテルに宿泊したときに、洗面所などに置かれている歯ブラシ、くし、タオル、せっけん、シャンプーなどの「アメニティグッズ」である。もう一つ私がよく見るものは、JR東日本の2階建新幹線「MAX」である。これに気づく人は少ないと思うが、車体をよく見ると「Multi Amenity Express」と書かれている。これらは、上述の置き換え語を用いると、「快適環境物品」「多くの快適環境急行」である。歯ブラシや窓外の景色がほとんど見えない1階席に快適さを感じるかどうかはともかく、ここで使われている「アメニティ」という言葉には、どことなく短期的な気持ちよさや付加価値的な気持ちよさを表す「快感」の意味合いが強いように思う。

「快適」とは「心やからだの望むとおりの条件が満たされて、とても気持ちのよい・こと(さま)。(大辞林)と定義されている。では、私たちの「快適」というのはど

のような状態のことをいうのだろうか。「快適」という言葉の持つ深遠さからすると、「アメニティ」を「快適環境」「快適さ」で置き換えたとしても、この言葉をはっきりと理解することは難しいように思う。

「アメニティ」はトータルな環境の快適さを示す概念である

アメニティは、ラテン語の「アマーレ」(amare, 愛する)という語源から派生した言葉と言われており⁴⁾、豊かな緑、さわやかな空気、静けさ、清らかな水辺、美しい町並み、歴史的な雰囲気など、ハードとソフトを兼ね備えた身の回りのトータルな環境の快適さを示すものとされている⁵⁾。また、イギリスの都市計画におけるアメニティの概念には「環境衛生」「快適さと生活環境の美しさ」「保存」が含まれているとされている⁶⁾。

また、参考文献⁶⁾等の中で進士は、アメニティ環境実現へのポイントとして「PVESM」を提唱している。これは、

1. Physical(機能性：機能的であるかどうか)
2. Visual(視覚性：美しいかどうか)
3. Ecological(環境性：生き物が生きられるかどうか)
4. Social(地域性：時代や地域に合っているかどうか)
5. Mental(精神性：懐かしさや感動があるかどうか)

の5つの要素が兼ね備えられている環境が望ましいとしている。この著者はランドスケープや都市計画の分野にこれを当てはめているが、住宅部品業界にもそのポイントを当てはめることは有用であろう。

住宅部品がアメニティにどのように寄与するのか、その構造の検討、追求、提示を

住宅部品がアメニティ環境の実現に寄与するために検討すべき事項について考えてみる。Physicalにおいては安全性や衛生性・経済性・操作性などの機能面での質ということになる。また、Visualにおいては美観性やわかりやすさ、Ecologicalでは省エネルギーや省資源・廃棄物を出さない・地域の環境をこわさないなどの環境への配慮、Socialでは時代性や地域性・個人差・多様性、Mentalでは全体的な感じや満足感を考慮する必要がある。

私は、参考文献⁷⁾において、主に水・熱・空気・光・音の建築設備に関するアメニティの変動要因を図-1のようにまとめた。また、前述の「PVMSM」を参考にして、ある集合住宅団地における、さまざまな居住環境に関するアンケートから、外部空間を中心とした住民のアメニティ評価構造を図-2のようにまとめた。ここでは、「安全性」が住民の満足感に大きく寄与していることを明らかにした。このような、アメニティの図化や構造化によって、トータルな環境の快適さの向上のために取り組むべき事項を読み取ることができるようにした。

環境情報視覚化ツール「Visual EcoWords」⁹⁾では、図-3のように「アメニティ」の関連用語を表示することができ、アメニティの大枠を視覚的に理解することができる。

上記のような取り組みを「リビングアメニティ」においても行う必要があると思われる。

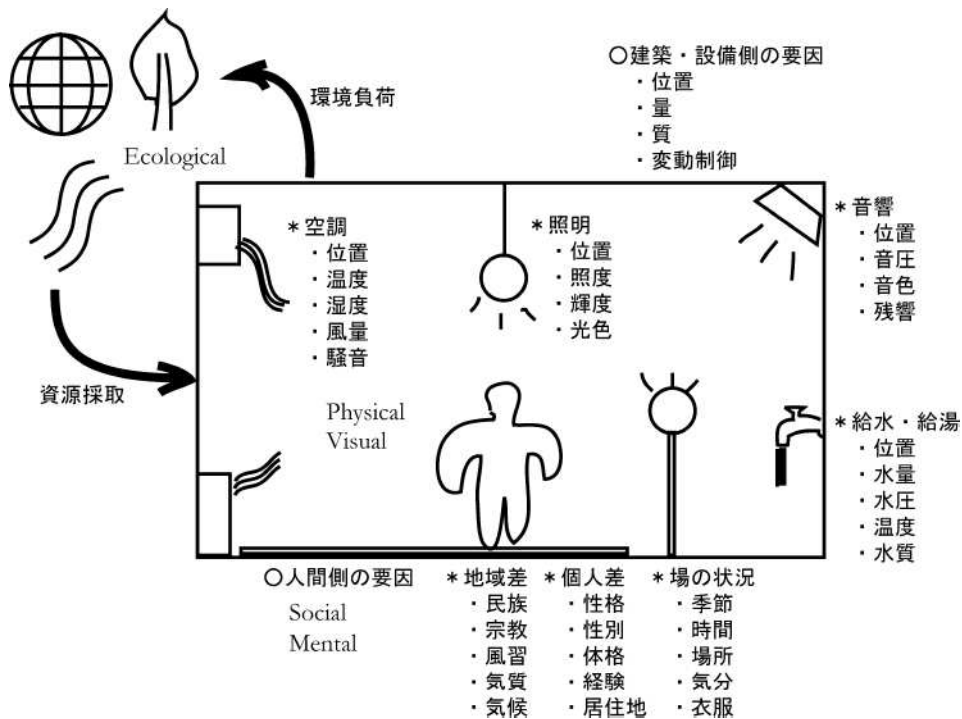


図-1 建築設備におけるアメニティの変動要因⁷⁾

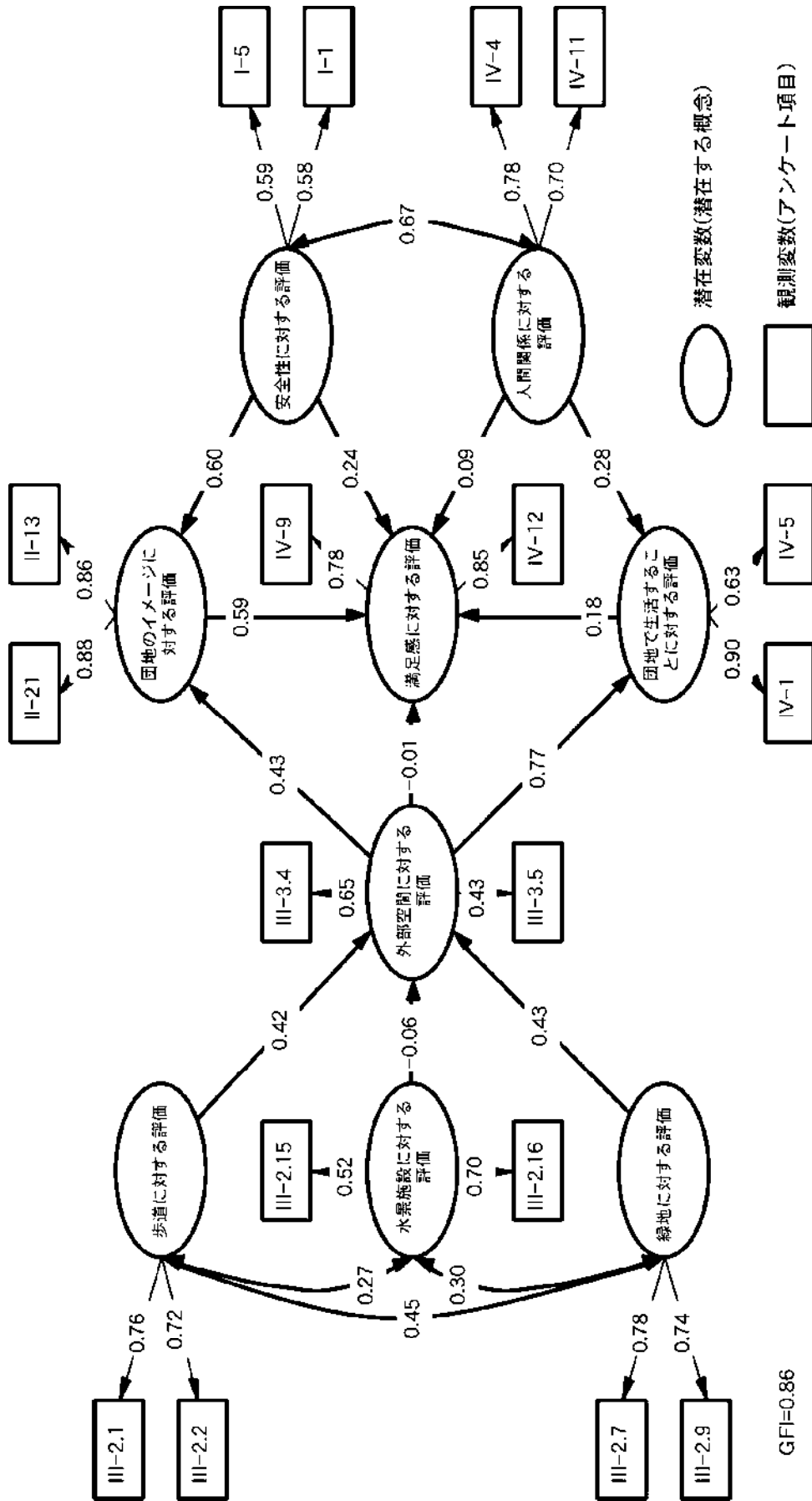


図-2 ある住宅団地におけるアメニティ評価構造(図内の数値は、矢印の方向への影響の大きさを標準化したものである)⁸⁾

